

国際シンポジウム 新たなステージを迎えた日・ASEAN 関係 ーグローバル・パートナーシップの構築に向けてー

～日本 ASEAN 友好協力 50 周年を迎え、次世代の有識者が今後の展望を語る～

国際交流基金（JF）は 2023 年 3 月 16 日（木）、日本 ASEAN 友好協力 50 周年を記念し、国際シンポジウム「新たなステージを迎えた日・ASEAN 関係ーグローバル・パートナーシップの構築に向けてー」を開催します。ASEAN（東南アジア諸国連合）独自の地域協力の構想「インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）」の形成に大きく寄与したマルティ・ナタレガワ元インドネシア外務大臣や、「アジアのノーベル賞」として名高いマグサイサイ賞を主宰するラモン・マグサイサイ賞財団のスーサン・アフアン理事長ら東南アジアを代表する知識人や次世代の有識者 13 人が来日し、日本の有識者と次の半世紀に向けた新たな日・ASEAN 関係について議論します。

日本と ASEAN の関係は、1973 年 11 月に設立された日・ASEAN 合成ゴムフォーラムに始まり、1977 年の福田ドクトリンを起源とする「心と心のパートナー」を基盤に、目覚ましい発展と深化を遂げてきました。日本と ASEAN 諸国の貿易額は 24 兆円（2021 年）を超え、日本の貿易総額の約 15%を占める規模にまで成長しています。また、両者の人の往来も、約 940 万人（2019 年）に上るなど、10 年前に比べて飛躍的に拡大してきました。その一方、両者はともに、ロシアのウクライナ侵略などにより不安定化する国際秩序や気候変動・自然災害などグローバルな共通課題への対処、各国に見られる経済格差、社会における相互不信の是正に向けた取り組みなど、次の 50 年に向けてより一層の国際協調を進めていく必要に迫られています。本シンポジウムでは、基調講演者としてマルティ・ナタレガワ元インドネシア外務大臣を招き、日 ASEAN 関係のこれまでとこれからを大局的に議論したうえで、政治、経済・社会、文化の 3 つのパネルを設け、それぞれの分野の有識者が現状や課題を検証し、これからの将来像について考えます。

記

事業名称：日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念国際シンポジウム
「新たなステージを迎えた日・ASEAN 関係ーグローバル・パートナーシップの構築に向けてー」

主催：国際交流基金

後援：外務省、国際機関日本アセアンセンター

開催日程：2023 年 3 月 16 日（木） 13 時 00 分～18 時 00 分 [開場：12 時 00 分～]

会場：ザ・プリンス パークタワー東京コンベンションホール（200～250 席）

形式：ハイブリッド式（対面＋オンライン配信）

言語：日本語・英語（同時通訳あり）

参加費：無料（要事前申込み）※会場参加については、定員となり次第締め切り。

【報道関係者登録】 <https://forms.gle/gftXixvLFCSuG1Lu8> (会場参加)
<https://forms.gle/kCHUTxMfjtMBRqai9> (オンライン参加)

【一般登録】 <https://forms.gle/tXDbPTLhc6hX5XZm8> (会場参加)
<https://forms.gle/YpxyahfhLFVX9a2b8> (オンライン参加)

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

報道関係者登録

会場参加



オンライン参加



一般登録

会場参加



オンライン参加



パネル 1「世界/地域の平和と安定に向けて」では、政治の分野における日 ASEAN 関係を議論します。世界の共通課題として、国際・国内社会ともに政治や社会の分断が顕在化し、ASEAN においても、その一体性と中心性が危機にさらされています。法の支配の強化や AOIP・FOIP（自由で開かれたインド太平洋）を通じた地域の平和と安定、公正な社会の構築などにむけて、日本と ASEAN が今取り組むべき課題について議論します。

パネル 2「持続可能で豊かな社会の実現に向けて」では、資本主義の限界が叫ばれ、格差が広がり、環境問題や自然災害という共通の課題に直面するなか、日本と ASEAN 諸国が取るべき行動や築くべき協力関係について考えます。自由で公正な経済秩序を維持しながら持続可能な社会を実現するために、コミュニティと社会包摂、技術革新やデジタルトランスフォーメーション（DX）、グリーントランスフォーメーション（GX）を活用したウェルビーイングのあり方など、国際的な難題の議論に挑みます。

パネル 3「人々の相互理解と信頼醸成に向けて」では、文化交流・人的交流の分野における日 ASEAN 関係を議論します。人の往来がますます盛んになり、日本や ASEAN に関する情報がインターネット上にあふれるなか、人々の相互理解と信頼醸成は自然に育まれているものかどうか、日本における ASEAN 理解の課題を含め、新しい世代やより広い社会階層を取り込んだ多層的な人的ネットワークのあり方について、1980 年代以降生まれで国際的に活躍する世代の有識者が考えます。

日本 ASEAN 友好協力 50 周年の記念すべき年に、本シンポジウムが、日本と ASEAN の関係を皆さまとともに考える場となることを願っております。

日本 ASEAN 友好協力 50 周年とは？

1973 年 11 月に設立された日・ASEAN 合成ゴムフォーラムに始まる日本と ASEAN の関係は、2023 年に 50 周年を迎えます。この歴史的な節目を祝賀し、日本と ASEAN 各国の政府は 2023 年を「日本 ASEAN 友好協力 50 周年」とし、年間を通して、日本と ASEAN の双方において、様々な記念事業や交流事業を実施し、市民交流を奨励していく年としています。キャッチフレーズは、「輝ける友情 輝ける機会」。

国際交流基金とは？

国際文化交流を専門的に行う日本で唯一の公的機関（独立行政法人）。「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」のミッションのもと、世界中で様々な文化交流事業を行い、人的ネットワークを築くことで、日本と世界の友好的な国際関係を支えています。対 ASEAN 事業としては、2013 年 12 月の日・ASEAN 特別首脳会議で日本政府が発表したアジア文化交流政策「文化の WA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」の実施を担う機関として、音楽、演劇、映画やスポーツから日本語教育、学術まで、様々な分野で事業を実施し、日本とアジア諸国との双方向の文化交流の強化・推進に努めてまいりました。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

シンポジウム日程（敬称略）

13:00～13:10 主催者挨拶・来賓挨拶

【主催者挨拶】	梅本和義	国際交流基金理事長	[日本]
【来賓挨拶】			

13:10～13:30 基調講演

【講演者】	マルティ・ナトレガワ	元インドネシア外務大臣	[インドネシア]
-------	------------	-------------	----------

13:35～14:55 パネル 1「世界/地域の平和と安定に向けて」

【モデレーター】	大庭三枝	神奈川大学法学部教授	[日本]
【登壇者】	ポンピスット・ブッサバーラット	チュロンコン大学タイ安全保障国際問題研究所所長	[タイ]
	レー・ホン・ヒエップ	ISEAS ユソフ・イシャク研究所シニアフェロー	[ベトナム]
	アブデラー・ノー	ブルネイ・ダルサラーム大学歴史・国際関係学科准教授	[ブルネイ]
	タン・シュー・ムン	ASEAN 事務局政治・安全保障局長	[マレーシア]

15:05～16:25 パネル 2「持続可能で豊かな社会の実現に向けて」

【モデレーター】	相澤伸広	九州大学大学院比較社会文化研究院准教授	[日本]
【登壇者】	サミラ・グトック	前バンサモロ移行委員会メンバー／人権・環境 NGO リーダー	[フィリピン]
	イエニー・ワヒッド	ワヒッド財団所長	[インドネシア]
	チア・セレイ	カンボジア国立銀行総裁補佐	[カンボジア]
	ジェシカ・チャム	Eco-Business 代表	[シンガポール]

16:35～17:55 パネル 3「人々の相互理解と信頼醸成に向けて」

【モデレーター】	スーサン・アフアン	ラモン・マグサイサイ賞財団理事長	[フィリピン]
【登壇者】	木場紗綾	神戸市外国語大学国際関係学科准教授	[日本]
	アドゥンラヤー・フントラクーン	バンコク芸術文化センター館長	[タイ]
	スクリヤ・プミヴォン	ラオス国立美術大学ビジュアル・コミュニケーション・デザイン学科長	[ラオス]
	マーク・テ	パフォーマンス作家／キュレーター／研究者	[マレーシア]

17:55～18:00 まとめ（閉会の挨拶に代えて）

【閉会挨拶】	佐藤百合	国際交流基金理事	[日本]
--------	------	----------	------

登壇者略歴**【基調講演】**

マルティ・ナタレガワ

元インドネシア外務大臣

インドネシアの元外務大臣（2009～2014 年）。『Does ASEAN Matter? A view from Within』（2018 年）の著者。

国連事務総長の調停に関するハイレベル諮問委員会、国連事務総長の軍縮に関する諮問委員会、国連軍縮研究所の評議員会のメンバーでもある。また、国連事務総長の「健康危機への世界的対応に関するハイレベル・パネル」や国連総会第 72 会期外部顧問団議長も務めた。

国連インドネシア常駐代表・大使（2007～2009 年）、駐英大使、駐アイルランド大使（2005～2007 年）を歴任。1986 年から 2014 年までインドネシア外務省で ASEAN 協力局長を含む様々な役職を務めた。

ASEAN では、2003 年のバリ・コンコード II による ASEAN 共同体の推進、東アジアサミットの開催、国際社会における ASEAN 共同体に関する 2011 年のバリ・コンコード III、東アジア首脳会議（EAS）加盟国間の紛争の平和的解決と武力行使の否定を定めた 2011 年の「バリ原則」に尽力した。インド太平洋地域における ASEAN の役割については、「動的平衡」の概念を通じて早くから提唱してきた。外相時代も含め、同地域における潜在的な紛争の管理・解決を積極的に推進した。

インドネシア国内、東南アジア、アジア太平洋地域のいずれにおいても、「同世代の外交政策および国際安全保障の思想家として最も尊敬されている人物の一人」とであると評価されている。

【パネル 1「世界/地域の平和と安定に向けて」モデレーター・登壇者】

大庭三枝

神奈川大学法学部教授

1968 年東京生まれ。国際基督教大学卒業。東京大学大学院博士課程修了。博士（学術）。東京大学大学院助手、東京理科大学准教授および教授、南洋工科大学（シンガポール）客員研究員、ハーバード大学日米関係プログラム研究員などを経て 2020 年 4 月より現職。専門は国際関係論、国際政治学、アジア太平洋／東アジアの国際政治、アジアの地域主義および地域統合。著書に『重層的な地域としてのアジア：対立と共存の構図』（有斐閣）など。2005 年に第 21 回大平正芳記念賞、第 6 回 NIRA 大来政策研究賞受賞。2015 年に第 11 回中曽根康弘奨励賞受賞。日本 ASEAN 友好協力 50 周年有識者会議座長を務める。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



ポンピスト・ブッサバーラット

チュロンコン大学タイ安全保障国際問題研究所所長

チュロンコン大学政治学部長補佐、同国際関係学科准教授。研究テーマは、東南アジアにおける大国間競争、タイの外交政策、国際関係における規範とアイデンティティなど。現在、米中間の戦略的選択に影響を与える規範的構成要素や、インド太平洋地域、特にメコン川流域における大国間競争の地政学など、複数のプロジェクトに取り組んでいる。コロンビア大学とケンブリッジ大学で大学院学位を取得後、オーストラリア国立大学で政治・国際関係学の博士号を取得。タイ国家安全保障会議（NSC）事務局で政策アナリストを務め、現在に至る。



レー・ホン・ヒエップ

ISEAS ユソフ・イシャク研究所シニアフェロー

ISEAS ユソフ・イシャク研究所（シンガポール）のシニアフェロー兼ベトナム研究プログラム・コーディネーター、地域戦略・政治研究プログラムのメンバー。同研究所発行の機関誌『Contemporary Southeast Asia』の編集者でもある。ベトナム外交学院で学士号、オーストラリア国立大学で国際関係学の修士号、および外交学の修士号を取得後、2015年にニューサウスウェールズ大学にて政治・国際学の博士号を取得。ベトナム外務省に勤務、ベトナム国家大学ホーチミン市校の国際関係学部で教鞭をとったのち、2015年より現在の研究所に所属。



アブデラー・ノー

ブルネイ・ダルサラーム大学歴史・国際関係学科准教授

ブルネイ・ダルサラーム大学（UBD）人文・社会科学部歴史・国際関係学科准教授。専門は制度と制度改革。最近「マレーシアにおける公共政策と行政の問題点—制度分析」と題する書籍を共著で出版した。現在はさらに2冊の書籍原稿を執筆中。一つは国家形成の意図せざる結果について、もう一つは「東南アジアの政治変動について—制度的な観点からの考察」。オックスフォード大学セント・アントニーズ・カレッジで博士号（政治学）を取得。



タン・シュー・ムン

ASEAN 事務局政治・安全保障局長

英キングス・カレッジ・ロンドンで戦争学修士号、米クレアモント大学で国際学修士号、アリゾナ州立大学で政治学博士号を取得。マレーシアの戦略国際問題研究所（ISIS）外交政策・安全保障研究局長およびマレーシア国立大学（UKM）シニア講師を経て、シンガポールの ISEAS ユソフ・イシャク研究所 ASEAN 研究センター長、同研究所地域戦略・政治研究プログラムシニアフェロー、『ASEAN Focus』編集長を歴任。専門分野はアジアの安全保障、ASEAN と主要国の関係、日本の外交政策。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

【パネル 2「持続可能で豊かな社会の実現に向けて」 モデレーター・登壇者】

	相澤伸広 九州大学大学院比較社会文化研究院准教授 専門はインドネシア政治、タイ政治、都市化と政治、東南アジア華僑。現在は、デジタル化をめぐる国際政治と、東南アジアにおける新興エリート・ネットワークに関する研究に取り組む。京都大学アジアアフリカ地域研究研究科で博士号取得。インドネシア・戦略国際問題研究所（CSIS）で客員研究フェロー、政策研究大学院大学研究助手、立命館大学非常勤講師、米コーネル大学客員研究員、タイ・チュラロンコン大学客員研究員、米国ウィルソンセンタージャパンフェロー等を歴任し、2007 年より現職。米ジョージメーソン大学 Movement Engaged リサーチハブ研究員兼任。著書に『華人と国家ーインドネシアのチナ問題』（書籍工房早山）。日本 ASEAN 友好協力 50 周年有識者会議委員。
	サミラ・グトック 前バンサモ移住委員会メンバー/人権・環境 NGO リーダー 元ムスリム・ミンダナオ自治区議員、元バンサモ移住委員会委員、フィリピン国軍マルチ・セクター諮問委員会のメンバーも務めた。現在はマラウィの戦闘による避難民の権利・福祉を保護する非営利団体 AKO BAKWIT, INC. の理事長。20 代からジャーナリストとして活躍。フィリピン・デیلیー・インクワイアラー紙特派員の他、アルジャジーラや BBC とも協働。国際青年会議所フィリピン支部選出の社会文化育成のための 10 人の優秀青年（2001 年）等受賞。
	イエニー・ワヒッド ワヒッド財団所長 社会起業家であり政治活動家。インドネシアのスシロ・バンバン・ユドヨノ元大統領やアブドゥラマン・ワヒッド元大統領の特別スタッフとして勤務したほか、オーストラリアの二大新聞であるシドニー・モーニング・ヘラルドとジ・エイジで記者として勤務した経験を持つ。 フランスのマクロン大統領が発起人となった「Paris Peace Forum」運営委員や、アラブ首長国連邦が主導する「Global Council for Tolerance and Peace」の創設メンバーの一人としても活躍。現在は、ワヒッド財団を通じて、社会から疎外された多くの女性たちを支援する草の根活動に力を注いでいる。
	チア・セレイ カンボジア国立銀行総裁補佐 カンボジア国立銀行（中央銀行）総裁補佐。金融包摂と女性の経済的エンパワーメントに熱心に取り組んできた。2012 年にカンボジア信用情報局を設立し、世界銀行の 2017 年「金融アクセス容易度調査」でカンボジアを世界第 7 位に押し上げた。分散型台帳技術を用いた国家基幹決済システム「バコン」の導入により、すべての金融サービス事業者間での相互運用を可能にし、金融サービスへのアクセスを向上させたほか、一般教育課程における金融リテラシー教育を導入するなどリーダーシップを発揮した。経済学博士で、世界経済フォーラム「ヤング・グローバル・リーダーズ」に選出されている。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



ジェシカ・チャム
Eco-Business 代表

持続可能な開発を専門としたメディア兼ビジネスシンクタンク「Eco-Business」の創業者兼代表。メディア業界や持続可能な開発・ESG 分野において 20 年の経験を持つ先駆者として知られている。現在、シンガポールの全国紙のコラムニストとしても活躍し、バスや鉄道、タクシーなどを運行する世界最大の旅客運送企業の一つである「ComfortDelGro」の非常勤取締役を務めるほか、同グループのサステナビリティ委員長、監査・リスク委員会、およびデジタル化委員会の委員。また、シンガポール取締役協会（SID）の会員として同協会の ESG 委員会の委員を務め、マレーシア企業取締役協会および英国企業取締役協会のメンバーでもある。

【パネル 3「人々の相互理解と信頼醸成に向けて」モデレーター・登壇者】



スーサン・アフアン
ラモン・マグサイサイ賞財団理事長

アジアで最も権威のあるラモン・マグサイサイ賞の運営に携わる。1957 年以来、同財団では人道上の課題解決に尽力した 340 名を超える個人や組織に賞を授与。アジア 21 カ国の次世代を担う若者の活動を支援する「トランスフォーメティブ・リーダーシップ・インスティテュート」も運営。米 Fortune 誌が発表する「Fortune500」の一つである米国の人材マネジメント会社で 30 年間勤務の後、2014 年にフィリピンに戻り ABS-CBN 財団理事長等として様々な社会問題に取り組んできた。



木場紗綾
神戸市外国語大学国際関係学科准教授

神戸大学大学院国際協力研究科博士課程修了（政治学博士）。フィリピン大学研究員、在フィリピン日本国大使館専門調査員、在タイ日本国大使館専門調査員、衆議院議員秘書などを経て現職。専門は東南アジア政治。特に、日本と東南アジアの政軍関係やセキュリティ・ガバナンス、防衛外交に関する国際共同研究を実施している。近著に、*Pathways for Irregular Forces in Southeast Asia: Mitigating Violence with Non-state Armed Groups* (Routledge, 2022)。日本 ASEAN 友好協力 50 周年有識者会議委員。



アドウンラー・フントラクーン
バンコク芸術文化センター館長

バンコク芸術文化センター（BACC）ディレクター、東南アジア考古・美術センター（SEAMEO-SPAFA）のアートアドバイザー。ロンドン大学東洋アフリカ学院で美術史及び音楽考古学の学士号取得後、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジとラサール芸術大学の提携プログラムにてアジア美術史の修士号を取得。現在、東京藝術大学博士課程に在籍中。キュレーター兼歴史家であり、過去には Vasan Sitthiket の回顧展「I Am You」（2018）、Spectrosynthesis II「Exposure of Tolerance」（2019）、

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

	Damrong Wong-Uparaj の遺作「A Retrospective of Versatility and Discipline」(2021) など数々の展覧会のキュレーションを手掛ける。
	スウリヤ・ブミヴォン ラオス国立美術大学ビジュアル・コミュニケーション・デザイン学科長 自身が設立したクレイ・ハウス・スタジオによる、ストップ・モーション・アニメーション作品で有名。代表作は「Buffalo and the Clay Man」。作品は国際的に知られ、アジア・パシフィック・トリエンナーレ（オーストラリア）、青洲クラフト・ビエンナーレ（韓国）、バンコク・アート・ビエンナーレなどに出展。ラオス国立美術大学ビジュアル・コミュニケーション・デザイン学科で教鞭をとる。
	マーク・テ パフォーマンス作家/ キュレーター/ 研究者 ドキュメンタリー的、思弁的、生成的な形態のさまざまなコラボレーションを通して、歴史、記憶、カウンターマッピングの絡み合いを提示する多様な共同プロジェクトに携わる。主な活動領域はパフォーマンスだが、美術、教育、社会的介入、キュレーション、執筆等の活動も行っている。ロンドン大学ゴールドスミス校で芸術と政治学の修士号を取得。マレーシアのアーティスト、アクティヴィスト、プロデューサーからなる集団「Five Arts Centre」のメンバーであり、コンテンポラリー・アートの世界においてオルタナティブな表現やイメージを生み出すことに尽力している。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp